

宇宙と私たち

(本編第7章より)

自分がどれだけ取るに足らない存在かに気づくとき、人はかえってもっと自由になれる。

宇宙のなかでもっとも壮大で美しいショーは、宇宙自身によるものだ。燦然とかがやく星空を見上げてみよう、なんときらびやかなショーではないか。

宇宙は広大で人はちっぽけだ。人がちっぽけだということは、人が直面する問題も取るに足らない。



宇宙のなかでもっとも壮大で美しいのは、宇宙自身だ

トナーで親友の犬だけは、人を宇宙で一番すばらしい、万物の霊長として認めてくれるだろう。人間を尊敬し、理解しようとしてくれる犬は、我々をシェイクスピアの詩のようにやまい、レンズラントの油絵のようにあがめる。けれど、人間はこの宇宙で最高の存在だと一番の親友が言ってくれたとしても、それを信じてはいけない。人は人だけを見てはいけない、宇宙のすばらしさを目を向けなければ。ハムレットが夜空について「ぼくたちの頭上のあのまごとな覆い、金色に輝く星をちりばめた壮麗な大屋根」と言ったように。

が複雑になりすぎて、その中から抜け出せないでいる。ハムレットに代表されるように、人を宇宙の中心にすえるルネサンス期のヒューマニズムは(中期、宇宙は神のいる場所とされた)、人を「やるべきか否か」、ハムレットの例でいえば「to be or not to be」という問題に直面させた。一方、タオイズムは、時間と空間の果てしなさにくらべれば、人を悩ますすべての問題はちっぽけだと考える。自分の小ささに気づき、自分は神だなどという考えをやめれば心は自由になり、名声や利益といった幻想にとらわれず、宇宙を自在にただようことができるようになる。

人は神などではない、しかし、自分がどれだけ取るに足らない存在かに気づくとき、人はかえってもっと自由になれる。

莊子の『秋水』は人のさまざまな限界を教える。秋の大水がやって来た。百もの支流の水をあつめ、黄河は大氾濫。対岸にいるのは牛か馬か言うことができないほど。この世の美しいものはすべて呑みこんでやったと河の神は大喜び。河の神は流れにのって東へ向かい、ついには北の海にたどりついた。さらに東を見はるかしてみたけれど、水の終わりを見ることはできなかった。河の神はまわりを見まわし、ため息をつく。海は神、若に言った。「百のことを知る者が自分はこの世で一番だと思ひこむ」って言葉があるけど、これはまさに私のことだね。今きみがどれほど大きいかを知ったよ。もしここまですてきなことが、みんなに笑われるところだった」

若は言った。「井戸のなかの蛙に海のことを話してはいけないよ。井戸はせまいから。夏の虫に氷のことを話してはいけないよ。寿命が短いんだから。本ばかり読んでる学者に道のことを話してはいけないよ。彼の知識では理解できないから。今きみは自分のまわりの囲いを打ち破って海を見た。そして自分の小ささを知った。これからは一緒に偉大な知について語り合うことができるね」

河の神や井のなかの蛙と同じように、人の理解力は宇宙の広大さにくらべれば本当に小さい。人はちっぽけで、この世で過ごす時間もほんのひとときに過ぎない。ならば、偉大なる自然にすべてをまかせよう。

(注) 訳注 大場建治著『研究社シェイクスピア・コレクション8 ハムレット』研究社 2010年、第2幕第2場より。

ということだ。満天の星空がいざなってくれるのは過去でもなく現在でもなく未来でもない、それは生死を超えた時空である。宇宙そのものはなやかな物語だ。

ハムレットは言う。「人間とはなんと傑作だろう！ 崇高な理性、無限の能力。姿といい、動きといい、なんとまごとな表現力を備えていることか。行動は天使に似て、理解力は神さながら」(注)。ハムレットの精神を狂わせたのは、人間を世界よりも偉大だとするこの考えだ。ハムレットが考えた問題は、自身の能力をはるかに超えるものだった。自己中心的な考えはこの世界から罰を受ける。

地球上で人類がもっとも偉大だなんて誰が賛成するだろう。小鳥？ アリ？ それともサル？ この考えには猫だって賛成しない。ただし、約一万五千年も前から人間と一緒にいる唯一のパ



我々の友人が賛成してくれたとしても、我々は宇宙の中心ではない



チーグアン・ジャオ 北京出身。カールトン・カレッジ教授、同済大学特別招聘教授、清華大学客員研究員などを歴任。中国社会科学院大学院で英米文学修士号、マサチューセッツ大学で比較文学博士号取得。著作に「A Study of Dragon, East and West」、「Do Nothing & Do Everything」、「古道新理」、「老子的智慧」、「世路心程」、「客舟聽雨」、「コンラッド小説選」など。2015年3月、マイアミでの遊泳中の事故により永眠。ミネソタ州の「スター・トリビューン」紙で「北極オーロラの星」と評価された。

町田晶 日中翻訳学院修了。東北大学文学部東洋日本美術史専攻、東北大学大学院文学研究科中国哲学専攻。学生時代の一人旅で中国文化の奥深さと中国人の温かさに触れたことから本格的に中国語を学ぶ。翻訳得意分野は思想、哲学、文学、食文化等。

アメリカの名門 Carleton College 院、全米で人気を博した

悩まない心をつくる人生講義

タイイズムの教えを現代に活かす

チーグアン・ジャオ (著) 町田晶 (訳)

現代の必修科目

「悩まない心をつくる人生講義」は、現代人が生きるために必要な教養。読者は100%自分で消せる

現代タイイズムのエッセンスをアメリカの若者に完全に伝えるために考え抜かれたメソッドの最大成果

現代タイイズムを著者・学究と私たち/世界中の若者に伝える。若くして「悩まない心をつくる人生講義」を手にし、人生の迷いを解き、心身の健康を回復し、人生の力を抜いて自然に生きることを勧める。

2016年4月、日本僑報社刊

「パンを手に入れることはもとより大事だが、その美味しさを楽しむことはもっと大事だ」

比較文化学者であるチーグアン・ジャオ氏が、身近な例から老子の人生哲学をわかりやすく解説した一冊。「よりよい老後」のために心身ともに無理を重ねる現代人に向け、老子の教えをもとに、肩の力を抜いて自然に生きることを勧める。

2016年4月、日本僑報社刊